

研修会報告

2017年4月3日

研修会テーマ「インターフェロン γ 遊離試験の現状」

開催日時：平成29年4月1日（土）14：00～17：00

会場：仙台市立病院

司会：大崎市民病院 感染管理部 大石貴幸

参加者：会員参加者32名 非会員4名 賛助会員6名 学生1名 講師3名 実務委員7名 計53名

教育点数：専門20点

シンポジウム インターフェロン γ 遊離試験の現状と正しい理解

1. 「T-SPOT[®].TBの検査原理と結果解釈」

オックスフォード・イムノテック株式会社 学術企画マネージャー 飯塚悟 先生

2. 「クオンティフェロン[®]TBゴールドの概要と特徴」

極東製薬工業株式会社 営業学術部 安倍夏生 先生

3. 「感度と特異度、陽性・陰性的中率の正しい理解」

大崎市民病院 感染管理部 大石貴幸 先生

特別講演

「インターフェロン γ 遊離試験 最新の知見」

仙台赤十字病院 呼吸器内科 三木誠 先生

概要

平成29年度第1回目の微生物部門研修会は、インターフェロン γ 遊離試験（IGRA）をテーマに開催された。日本には現在2つの方法のIGRAが承認され臨床で使用されている。1つはクオンティフェロン[®]TBゴールド（QFT）、もう1つはT-SPOT[®].TB（T-SPOT）である。これらの基本的な検査原理は同じであるが、インターフェロン γ 産生量を測定する方法に差異があり、似て非なる検査ともいわれている。また、IGRAの感度・特異度、陽性的中率・陰性的中率も臨床で問題となることがあり、両IGRAの特性とともに臨床検査技師として適切な知識を身に着けておかないと、臨床医からの問い合わせに的確な返答ができない可能性がある。このような現状から、今回の研修会を企画した。

研修会では、QFTとT-SPOTの差異や判定する際の注意点、疫学的な観点からの総合的な判断、ピットフォールなどが講義された。質疑応答では活発な意見交換がされ、日常業務におけるIGRAに対する疑問点などが明確化されたと感じられた。また、今回は微生物検査部門の研修会であったが、微生物検査担当以外の検査技師の方々にも多数参加していただき、IGRAへの関心の高さが伺われた。

微生物部門 部門長 大石貴幸